

英語学位プログラムの進路決定に重要な他者が与える効果研究

—日本の大学を事例として—

三好 登, 永田 純一 (広島大学)

日本も含めた非英語圏における英語学位プログラム (EDP) の設置は, 高等教育における世界的な現象である。本研究では, 広島大学の EDP を事例に, 日本人高校生と外国人高校生との間に, いかなる進路形成の違いがあるのか, 先輩・友人・家族の影響に焦点を当て, 検証を行った。

分析の結果から, 外国人高校生が進路形成に当たって受ける影響は「先輩・友人」であるのに対して, 日本人高校生は「母親」であることが明らかになった。分析の結果を踏まえ, まず外国人高校生については彼ら/彼女らが大学在学中に円滑な学習生活を送れるよう支援していくことが大切であり, そのことがゆくゆくは先輩を通じ, 新たな外国人高校生の進路形成に重要な影響を及ぼすことになる。次に日本人高校生に関しては, より保護者を対象とした大学説明会に力を入れていく必要がある。

キーワード: 英語学位プログラム, 外国人高校生, 日本人高校生, 進路形成, 重要な他者

1 研究背景と目的

日本も含めた非英語圏における英語学位プログラム (English Degree Programme: 以下, EDP と呼ぶ) の設置は, 高等教育における世界的な現象である (Dearden, 2014)。自由貿易に基づく経済活動, 世界的な高等教育需要拡大に伴う留学生数の増加, 英語による研究成果を主な指標とする世界大学ランキングへの関心の高まりなどを背景に, 英語は事実上の世界共通語となっており, これが非英語圏の大学における EDP 設置を加速させている (堀内, 2015, 2018)。このような潮流の中で 2014 年, 文部科学省が, 国際化を徹底して進める大学を重点支援する事業「スーパーグローバル大学創生支援事業 (以下, SGU と呼ぶ)」¹⁾の公募を行い, タイプ A のトップ型およびタイプ B のグローバル化牽引型あわせて国公私 109 大学から応募がなされた。その結果, SGU に 37 大学が採択され, それら採択校の取り組みの一つとして EDP の設置が行われ, 2019 年時点, 学部段階で 38 大学 65 学部において英語による授業のみで卒業できるプログラムがある²⁾。そして今後も国際化の進展に伴い, この EDP の拡大が見込まれている。このため, この日本の EDP で学習を希望する日本人および日本国籍を有していない外国人高校生の進路形成をいかに促し, 確保するかが, 課題となっている。

本研究で事例とする広島大学の EDP は, 既存の学部に外国人高校生を対象としたプログラムを付加的に併設した言わば「学部併設型」である。今日存在している EDP のほとんどはこの「学部併設型」を取っている³⁾。それは学部新設や, 定員増といった設置認可

を経ずに開設することが可能であり, 大学側にとっては大幅な組織改編をせずに比較的容易にスタートできるためである (小竹, 2014)。このため, 大半の大学の EDP の入試制度についても, 既存の一般入試をベースに, そこに留学生入試を加えて, 日本人高校生と外国人高校生をともに受け入れることができるシステムを有していると言える⁴⁾。よって本研究では, 広島大学の EDP を事例に, 分析を試みるが, 本研究の成果は, 多くの大学の EDP においても適用可能な普遍的なものであると考えられる。

以上の背景から, 本研究では, EDP への進路形成に当たって, これら日本人高校生と外国人高校生との間に, どのような違いがあるのか, これまで高校生の進路形成の研究で重要な他者 (Significant others) として脚光を浴びてきた先輩・友人・家族の効果に着目し, オープンキャンパスに参加した日本人高校生および外国人高校生へのインタビュー調査に基づき明らかにすることを目的とする。

このことによって, EDP における日本人高校生および外国人高校生の効果的な学生募集のあり方を提示するのみに留まらず, 多様性のある大学を作り出し, QS World University Ranking など世界大学ランキング⁵⁾への貢献も期待できる。

2 先行研究と仮説の設定

2.1 先行研究

日本語学位プログラム (既存の学部を指す) ではあるものの, 日本人高校生および外国人高校生の進路形成に関する研究は, 管見の限りでいくつか散見される。

表1 インタビュー対象者のプロフィール

	国籍	性別	年齢	高校	英語外部検定試験スコア
Aさん	中国	女性	16歳	IB	TOEFL iBT 60点
Bさん	中国	女性	17歳	IB	TOEFL iBT 75点
Cさん	中国	女性	16歳	インター	TOEFL iBT 55点
Dさん	中国	女性	17歳	インター	TOEFL iBT 75点
Eさん	中国	女性	17歳	IB	TOEFL iBT 60点
Fさん	ベトナム	男性	17歳	一般	なし
Gさん	インドネシア	男性	16歳	一般	なし
Hさん	中国	女性	16歳	IB	TOEFL iBT 50点
Iさん	中国	女性	16歳	IB	なし
Jさん	中国	女性	17歳	インター	TOEFL iBT 80点
Kさん	日本・英国	女性	17歳	IB	英検2級, TOEFL iBT 65点
Lさん	日本	男性	16歳	IB	英検準2級
Mさん	日本	男性	16歳	IB	英検準2級
Nさん	日本	女性	17歳	SGH	英検準2級
Oさん	日本	男性	17歳	一般	なし
Pさん	日本	男性	16歳	一般	なし
Qさん	日本	女性	17歳	SGH	英検準2級
Rさん	日本・米国	女性	17歳	IB	英検2級, TOEFL iBT 65点
Sさん	日本	女性	17歳	IB	英検2級, TOEFL iBT 65点
Tさん	日本	女性	17歳	IB	英検準2級

注) 国籍欄の表記：二重国籍者は並記。高校欄の表記：IB＝「国際バカロレア校」，インター＝「インターナショナルスクール」，SGH＝「スーパーグローバルハイスクール」，一般＝そのほかの普通の高校の略。

日本語学位プログラムへの外国人高校生への進路形成に対して国際的学習環境が与える影響を検証した三好（2020）の研究で、外国人高校生および外国人教員が量的に充実していると、外国人高校生への進路形成が促されることが明らかになっている。また入試広報効果に着目した三好（2019）の研究では、入試相談などの直接型入試広報を行うことで有効な作用を与えていることがわかっている。このように日本語学位プログラムにおける外国人高校生へのケースでは、国際的学習環境および入試広報効果の有効性が検証されている一方で、依然として本研究のテーマである EDP における重要な他者の影響はブラックボックス化されたままである。しかし日本語学位プログラムではあるものの、日本人高校生への進路形成に当たってはこれまで重要な他者に関する研究の蓄積がなされている。例えば、片瀬（2009）の研究などがその一つに当たり、ここでは母親が進路形成に与える有効性が指摘されているし、岡村・豊田・多根井（2017）の研究では、友人や知人も影響を与えており、その関係性において親密性が高いほどより効果がみられることに言及している。しかし三輪・苦米地（2011）の研究では、出身階層も影響を与えており、進路形成をめぐる個人の意識は、出身階層による制約を免れ得ないとの指摘もあり⁹、その効果には過分に検討の余地が残されている。

2.2 仮説の設定

以上の先行研究を踏まえ、本研究においては、以下の二つの仮説を設定して分析を試みる。

（仮説 1）「先輩や友人との関係が高親密性であるほど、EDP への外国人高校生への進路形成に影響を及ぼす」という仮説を設定した。

EDP への外国人高校生への進路形成において、母親は英語がわからないことが多いことに加え、このことと関連して海外の大学事情も把握していないと想定されるため、影響を及ぼすことは少ないと思われる。むしろ、日本の大学の EDP に在籍している先輩や、同じ目標を共有している親しい関係にある友人のほうが、相談相手として進路形成に影響を与えているものと考えられる。

（仮説 2）「母親との関係が高親密性であるほど、EDP への日本人高校生への進路形成に影響を与える」という仮説を立てた。

EDP への日本人高校生への進路形成に当たって、外国人高校生への母親とは違い、EDP といっても日本の大学のことであることから、大学事情に明るくて仲が良い母親のほうが、相談相手として影響を及ぼしていると考えられる。

3 研究方法

2019年8月20日(火)～21日(水)にかけて、広島大学オープンキャンパス(東広島キャンパス)でEDPの模擬授業⁷⁾に参加した日本人高校生10名および外国人高校生10名に調査協力をお願いを行い、それぞれ1時間ずつ都合のつく日程で後日Skypeにて半構造化インタビューを実施した。インタビュー対象者のプロフィールについては表1の通りである。

インタビューの項目としては、1) インタビュー対象者本人のこと(性別、国籍、高校名、年齢、英語外部検定試験スコアなど)、2) オープンキャンパスのこと(オープンキャンパスで知りたかった情報、オープンキャンパスに誰と参加したかなど)、3) 進路のこと(進路はどのように考えているか、進路を決めた時期はいつか、進路を決めた際に最も誰と相談したか、その方との親密度、大学への進学を決めた際、何を重視したか、本学への進学を希望しているか、本学のどの学部への進学を希望しているかなど)、4) 大学説明会・国際的な取り組み(本学の大学説明会に参加したことがあるか、本学の大学説明会に参加して理解が深まったか、本学の国際的な取り組みのどれに興味があるかなど)、5) 大学卒業後の進路について尋ねた。

インタビューは、外国人高校生については基本的に英語⁸⁾で行い、日本人高校生は日本語で実施した。事前にインタビュー内容を録音する許可をもらったうえで、インタビュー終了後に、テープ起こしを行い、日本語でトランスクリプト化した。以下からの分析結果と考察では、EDPの出願要件の一つである英語外部検定試験スコアの基準を満たしている者⁹⁾を中心に、その日本語のトランスクリプトを基に分析する。

4 分析結果と考察

留学先の決定はまず国が選ばれ、しかる後に大学が選ばれるのであるという横田(2013)の指摘に基づき、本節では4.1で、外国人高校生の渡日したい経緯に関するインタビューの分析結果と考察をみとうえで、次に4.2で、外国人高校生と日本人高校生双方が、EDPへの進路形成するに当たって、本研究で着目する先輩・友人・家族が、いかなる影響を及ぼしているのか、その違いをみていくこととする。そして4.3で、大学卒業後の進路についての考察を試みる。

4.1 渡日したい経緯—外国人高校生インタビューから

(Bさん) 日本はノーベル賞受賞者が、アメリカに次いで多い国だから、日本の大学は学術的に優れている表れだと感じたため渡日したいと考えていま

す。(その理由だったらアメリカのほうが良いのではというインタビュアーの質問に対して) アメリカは確かに様々な文化や、教育的バックグラウンドを持った人が集まってくる国なので行きたいとは感じていますが、留学生に対する大学の学金・授業料が高すぎるのと、アルバイトの時間が限られていることと、文化的に違いすぎるので、大学に上手く溶け込むことができるか不安です。

(Dさん) 大学における英語でのシラバスの充実、留学生数の増加や、英語での専門の授業開講科目数が多いと感じたので渡日したいと思っています。(アメリカなどの英語圏の大学に行けば、それらの環境はより自然に充実しているのではというインタビュアーの質問に対して) 当然そうだとは思いますが、平和教育に関心があるということと、母国と距離的に近い東アジアの国ということとなると、日本が一番優れていると感じています。

(Jさん) 大学卒業後は日本でソニー、東芝などグローバル企業で働きたいため渡日したいと思っています(ソニー、東芝などの場合は、渡日しなくても母国の現地法人で働けるのではというインタビュアーの質問に対して) 母国と日本との事業に、日本サイドから関わりたいと考えているので、それを実現するためには渡日することが必要と感じています。これまで見えなかった観点から、母国の経済発展に貢献することができると思います。

渡日したい経緯については、Bさんは学術的・就労的側面から、Dさんは大学環境的観点から、そしてJさんは大学卒業後の進路の観点からそれぞれ言及しており、一様ではない様子が見えてくる。

Bさんのインタビューに、アメリカの大学の授業料が高すぎるという言及がある通り、アメリカの大学の年間授業料は州立大学で約300万円、私立大学で約400万円である一方、日本の大学の年間授業料は国立大学で約50万円、私立文系学部で約80万円、私立理系学部で約100万円、私立医歯系学部で約300万円となっている¹⁰⁾。実際にはアメリカの大学に進学したいのかもしれないが、奨学金を得る見通しが限り、進学は現実的ではないと考え、日本の大学に進学したい(せざるを得ない)様子が見えてくる。

またDさんのインタビューからは、Dさんが地理的な距離に近い東アジアにおいて、EDPを探し、日本の大学が最も優れていると判断して進学したいと考

えるに至ったことがわかる。

さらに J さんのインタビューからは、大学卒業後に日本の企業で働くことを通じて、母国と日本との架け橋となり、母国に貢献するため、日本の大学に進学したいと考えている様子がうかがわれる。

4.2 進路形成

4.2.1 では、外国人高校生と日本人高校生が、EDP へ進路形成するに当たり、先輩・友人・家族が、いかなる影響を及ぼしているのか、その違いについて検討を行う。次に 4.2.2 では、その先輩・友人・家族と、どの程度の親密度があるのか、さらなる考察を試みる。

4.2.1 先輩・友人・家族の影響

〈外国人高校生インタビュー〉

(B さん) 現在、母国の国際バカロレア校（以下、IB 校と呼ぶ）に通っているのですが、当初から海外の EDP に行こうと考えていた。IB 校に入って 2 年目に進路で悩んでいた時に、広島大学の EDP に入学した先輩が、広島大学の先生と一緒に入試説明会に来て、話を聞く機会がありました。広島大学の EDP には先輩がいるので、そこでの学習や、日本での生活で困ったことがあっても助けてくれると思うことから、広島大学の EDP への進学を第一志望としています。絶対に入学したいです。（広島大学の EDP への進路形成にあたって母親に相談にのってもらっていることはないのかというインタビューの質問に対して）母親は日本のことは知りませんし、英語もわからないので、相談してもわからないと思い、相談していません。

(D さん) 今、IB 校に行っているわけではないのですが、海外の大学に進学する生徒が多い高校に通っています。進路に悩んでいたところ、私の友人のお兄さんが広島大学の EDP に行っていることを知り、参考になればという思いから、そのお兄さんにスカイプで進路相談にのってもらいました。お兄さんからは広島大学の EDP でのコアカリキュラムの一つとして平和教育があるということや、日本での生活について話を聞くことができました。このことがきっかけで、現在ではいくつかの進学先の候補の一つとして広島大学の EDP に進学したいと考えるようになりました。ただ、ほかにも興味があるところが出てきたので、少し迷っているのが現状です。（広島大学の EDP への進路形成にあたって母親に相談にのってもらっているこ

とはないのかというインタビューの質問に対して）母親は 60 歳なので、日本に行ったこともなければ、大学のこともわからないので、進路について相談したことはありません。

(J さん) 現在、インターナショナルスクールに通っていて、ほとんどの周りの友人が海外の英語プログラムに進学したいと考えています。先日行われた JASSO の海外留学フェアに私の知り合いの友人が参加して、広島大学の先生から EDP の話を聞き、学校でその友人から熱心に広島大学の EDP を勧められました。そして自分で広島大学の EDP のことを調べているうちに、興味を持つようになり、今では第一志望ではないですが、広島大学の EDP への進学も考えています。（広島大学の EDP への進路形成にあたって母親に相談にのってもらっていることはないのかというインタビューの質問に対して）母親は、海外の英語プログラムについて人伝えに聞いてくるだけで、英語がわからないため、相談はしていません。

先輩・友人・家族の影響に関して、B さんは先輩、D さんは友人のお兄さん、J さんは友人の側面から述べている。まず B さんのインタビューから、広島大学の EDP に自分の高校の先輩が現役学生としており、その先輩の話を聞いて進路形成していることがわかった。日本の EDP に進学する場合、母国と比較して、言語、文化や、生活習慣などの面で不安に思うことが多いが、先輩が在籍しているということが安心感となって影響を与えている様子がうかがわれる。

次に D さんのインタビューからは、広島大学の EDP に在籍している友人のお兄さんに進路相談にのってもらい、進路形成していることがわかった。しかしそれと同時に、ほかの大学にも関心を持つようになり、進路について迷っている状況もうかがわれる。B さんとは違い、D さんは友人のお兄さんということで少し遠い関係にあることが、あくまで進学先の候補の一つとして留まっている要因の一つかもしれない。

そして J さんのインタビューから、知り合いの友人が JASSO の海外留学フェアに参加し、その話を聞いて広島大学の EDP に興味を有していることがわかった。だが B さん、D さんとは異なり、このことが広島大学の EDP への進路形成までには結びついていないこともうかがわれる。もしかすると D さんと同様に、知り合いの友人ということでそれほど近い関係にないことから、進路形成に与える影響も限定的で

あった可能性がある。

さらに B さん、D さん、J さんに共通していることとしては、母親は日本に行ったことがないため、日本の大学の英語プログラムの事情が分からず、英語もわからないことから、相談相手としてふさわしくないと考えているということである。したがって、外国人高校生の日本の大学の EDP への進路形成に当たり、先輩および友人などの経験者との相談のほうが、より有効に左右しているという状況があるのかもしれない。

<日本人高校生インタビュー>

(K さん) 現在、IB 校に通っているのですが、できれば大学でも EDP に入りたいと思っています。部活の先輩が、広島大学の EDP の現役生で、高校に来た時に直接対面で話を聞く機会があり、文系も理系も学習できて、入学後にメジャーとマイナーを選択することができるとうかがい、広島大学の EDP に関心を持ちました。ただその先輩以上に、広島大学の EDP への進路形成に影響を与えたのは母親だと思います。母親は身近な存在で、常に進路相談にのってもらっているからです。この母親の存在もあり、広島大学の EDP への進学を第一志望としています。

(N さん) 今、スーパーグローバルハイスクールに行っているのですが、母親が広島大学出身で、広島大学の EDP への進路に関して相談にのってもらうことができました。広島大学の EDP は広島ならではの平和教育をコアカリキュラムの一つとしていると母親から聞きましたが、EDP で、国際関係の学部/学科のあるところはほかにもあるため、正直、広島大学の EDP へ進学するかどうかが迷っています。進路形成への母親の影響はややあるかもしれませんが、そんなには強くないと思います（広島大学の EDP への進路形成にあたって先輩や、友人に相談にのってもらっていることはないのかというインタビューの質問に対して）先輩や、友人に相談にのってもらうことはありません。母親と一緒に住んでいますし、EDP といっても日本の大学のことなので母親でもわかるので、母親に相談にのってもらっています。

(R さん) 現在、IB 校に通っています。EDP があり、2 年目に在籍している学生すべてが半年間留学することができるという話を、広島大学の説明会に参加した母親から少し聞きました。それと同時に、

ほかの大学のことも聞きました。日本でも広島大学の EDP のようなところは増えてきており、特別に珍しいということもないので、第一志望ではないですが、広島大学の EDP も考えてみたいと思います。（広島大学の EDP への進路形成にあたって先輩や、友人に相談にのってもらっていることはないのかというインタビューの質問に対して）あまり先輩や、友人に相談にのってもらうことはないと思います。母親がいろいろな大学の説明会に参加してくれますので、日本の大学の EDP のことであれば、母親に相談にのってもらうのが一番良いと思うからです。

以上、先輩・友人・家族の影響について、K さん、N さん、R さんのいずれについても母親の側面から言及している。まず K さんのインタビューから、先輩以上に、母親が広島大学の EDP への進路形成に大きな影響を与えている様子が見られる。それは K さんのインタビューにあるように、先輩と比較して、母親のほうが「身近」な存在であるからに他ならない。

次に N さんのインタビューからは、海外から外国人高校生が広島大学の EDP へ進路形成する場合とは異なり、日本人高校生は EDP といっても日本の大学のことなので母親が進路形成にあたって影響を及ぼしていることがわかる。海外からの外国人高校生のケースでは、母親が日本の大学のことを認知していないことが多いことに加え、言葉の問題もあることから、先輩や友人などの経験者に相談にのってもらい、広島大学の EDP へ進路形成している一方で、日本人高校生のケースでは、母親によって進路形成がなされているというように、すみわけがなされているということが、本研究で明らかになったことは効果的な学生募集を行う上で重要である。今後はその重要な他者に向けた大学側の訴求力のある入試広報が必要不可欠であると言える。

4.2.2 先輩・友人・家族との親密度

<外国人高校生インタビュー>

(B さん) (インタビューで出てきた先輩とはどの程度仲が良いですかというインタビューの質問に対して) 先輩の自宅と近かったので、先輩が在学中からとても仲が良かったですし、勉強の仕方や、進路相談にのってもらっていました。また家族ぐるみでお互いの自宅に行き来がありました。広島大学の EDP に入学後も、離れていることを感じ

させないくらいビデオチャットとかで頻繁に連絡をとっており、仲が良いです。こちらに帰ってくるときには、事前に都合を合わせて、必ず食事などを行っています。先輩というか、同世代の親友のような感じです。

(D さん) (インタビューで出てきた友人のお兄さんとはどの程度仲が良いですかというインタビューの質問に対して) 私とその友人は小学校の同級生でしたが、クラスが違いましたし、クラブも一緒ではなかったの、会ったら挨拶する程度の仲でした。ですので、友人のお兄さんとはこちらにいる時にも会ったこともなければ、話したこともなかったのですが、EDP がある日本の大学に入学していたことは知っていたので、偶然、スカイプのオンライン上で見つけ、友達申請して、話してみたというだけです。特段親しいというわけではないです。

(J さん) (インタビューで出てきた知り合いの友人とはどの程度仲が良いですかというインタビューの質問に対して) 話したこともないので、親しくはないです。海外の EDP について、同級生 10 名と情報交換しているときに、その友人が偶然入ってきて、広島大学の EDP のことを話していたというだけです。それで自分で調べてみただけなので、その友人とは全く親しいというわけではありません。

まず B さんのインタビューから、先輩の自宅との距離が近く、家族ぐるみの付き合いをしており、先輩が広島大学の EDP 入学後も、ビデオチャットを頻繁にしていたということからわかるように、とても親密な関係にあることがうかがわれる。その上で、この B さんはその先輩との話の中で進路形成をしていることがわかる。このことから「先輩や友人との関係が高親密性であるほど、進路形成に影響を及ぼす」、という本研究の冒頭で提示した仮説 1 は支持されたと言える。

その一方、D さん、J さんのインタビューから、友人のお兄さんや、知り合いの友人とは会ったこともなければ話したことがないと語っているように、B さんの先輩と比較し、親密な関係にはないことがわかる。

<日本人高校生インタビュー>

(K さん) (インタビューで出てきた母親とはどの

程度仲が良いですかというインタビューの質問に対して) 母親とはとても仲が良いです。毎日、学校でどのようなことがあったのか、何を勉強したのかなど話しています。母親は高校の先生の免許状を持っているので、わからないことがあれば、教えてもらっています。また今、母親は仕事をしておらず、専業主婦のため、常に家にいるので、私といろいろな話をし、相談にのってくれています。父親は働いており、忙しそうですので、あまり話すことはないですが、母親とはよく話します。

(N さん) (インタビューで出てきた母親とはどの程度仲が良いですかというインタビューの質問に対して) 進路のことで困ったことがあれば、母親に相談にのってもらう程度で、仕事で休日とかもないため、そこまで母親と話すことはありません。仲が悪いというわけではありませんが、頻度は多くはないかと思います。普通です。

(R さん) (インタビューで出てきた母親とはどの程度仲が良いですかというインタビューの質問に対して) 母親とは普通だと思います。看護師の仕事をしているので、いつも相談にのってもらうわけにはいきませんが、夜勤とかなないときの休日の時に、大学説明会に参加してくれているので、そのときのことについて話し合っています。ですがこの頃は、看護師の仕事が忙しいみたいで、休日もあまりないようなので、大学説明会にも参加できず、話す機会は少なくなってきました。

まず K さんのインタビューから、母親とはとても仲が良く、専業主婦であることから、K さんと話す時間的余裕も十分にある様子うかがえる。また母親が高校教諭の免許状を取得しているため、勉強も教えてもらうこともあり、親密な関係にあることが見て取れる。そして K さんは、この母親の存在もあって進路形成していることがわかる。よって、「母親との関係が高親密性であるほど、進路形成に影響を与える」、という本研究の仮説 2 は支持されたと言える。

これに対して、N さん、R さんのインタビューからは、母親が専業主婦のために時間的なゆとりがあり、関係がより高密度である K さんとは違い、母親が仕事をしているため、話す機会が限定されていることから、その関係についても K さんと比較すると、特段仲が良いというわけではなく「普通」であるという様子がインタビューの語りからうかがわれる。

4.3 大学卒業後の進路

＜外国人高校生インタビュー＞

(Bさん) 日本に渡日して、日本の大学で学ぶことができたとしたら、大学卒業後も日本に残って働きたいと考えています。大学で身につけた英語、日本語という言語能力とともに、教養・専門的知識を生かして母国と日本との懸け橋になりたいです。もしできるなら、楽天とかグローバルな企業で働ければと思います。

(Dさん) まだ先のことなので大学卒業後のことは決めてはいませんが、日本に渡日して大学に入ることができたとしたら、せっかく日本の大学で学んだので、日本において仕事をしたいと思います。

(Jさん) 日本に渡日して、日本の大学に入ることができたとした場合、大学卒業後は、やはり日本のグローバルな企業で働きたいと考えています。そういう企業のほうが、外国人である自分にとっては活動範囲が大きいように思えるからです。

Bさん、Dさん、Jさんのインタビューから共通し、渡日して、日本の大学で学ぶわけであるから、大学卒業後も引き続き日本に留まり、日本で働きたいという意志が感じられる。またBさんは、言語能力および学術的素養を生かし、日本のグローバルな企業で働いている様子がうかがえる。さらにJさんからも、外国人であるというメリットを生かして日本の同様な企業で働くことを思案していることがわかる。

＜日本人高校生インタビュー＞

(Kさん) これまで高校ではIB校に通い、またこれから広島大学のEDPと、多様なバックグラウンドが集まる学校で学習してきましたが、日本を出たことはないので、広島大学のEDPでの留学経験を生かして、大学卒業後は、日本以外の国、海外で働いてみたいと考えています。ただ国際公務員に興味があるので、海外の大学院に進学することも検討しています。

(Nさん) 今まで日本で生活してきたので、大学で学んだことを生かして、大学卒業後は、海外で働いてみたいと思っています。JICAにおいて発展途上国の子供の教育レベルの向上に貢献したいです。

(Rさん) 現在、高校でIB校に行っており、EDPのある大学に行きたいので、そうすると大学卒業後は、海外で働くことになるのかなと考えています。海外において移民労働者の人権問題にかかわるNGOで働きたいと考えています。

外国人高校生であるBさん、Dさん、Jさんは、渡日して大学卒業後も継続して日本に住み、仕事をしたいとインタビューの中で語っている。大学卒業後の進路として外国人高校生はいわば「日本型志向」にある。これとは逆に、日本人高校生であるKさん、Nさん、Rさんのすべてに共通しているのは、大学卒業後、日本以外の海外で働きたいと、インタビューで語っていることである。「海外型志向」にあると言える。

外国人高校生は渡日する時点で、少なくとも学部4年間は、海外経験をすることになる。これに対して、日本人高校生であるKさんは、そのインタビューの中で、これまで多様なバックグラウンドが集まる学校に身を置きながらも、日本を出たことがない、という語りからわかるように、海外での生活に魅力を感じながらも、海外経験に恵まれなかったことがうかがわれる。Nさんも、KさんのようにIB校に通っているわけではないが、スーパーグローバルハイスクールという国際色豊かな学校に通っており、今まで海外経験がない、という点で同様の状況に置かれていることがわかる。外国人高校生と日本人高校生とでは、このような状況の違いが、大学卒業後に想定される進路を左右していると言える。

5 結論

本研究では、広島大学のEDPに、日本人高校生および外国人高校生とで、どのような進路形成の差異があるのか、先輩・友人・家族の効果に着目し、インタビュー調査から解明した。

分析の結果から、まず外国人高校生が渡日したい経緯については、様々な理由があり、一様ではないことがわかった。次に先輩・友人・家族の影響に関してであるが、外国人高校生が進路形成に当たって受ける重要な他者の影響は「先輩・友人」である一方で、日本人高校生は「母親」であることが明らかになった。よって、本研究において設定した仮説はいずれも支持されたと言える。さらに大学卒業後の進路についてであるが、外国人高校生は「日本型志向」であるのに対し、日本人高校生に関しては「海外型志向」であるという、入学から卒業後までのプロセスがわかった。

以上の分析の結果を踏まえたインプリケーションに

ついてであるが、まず外国人高校生については例えば、英語でのシラバスの完備、英語での多様な授業科目の設定や、英語での様々な学生支援のための職員の配置など、彼ら/彼女らが大学在学中に円滑な学習生活を送ることができるようにいかに支援を拡充していくか、ということが大切であり、そのことがゆくゆくは広島大学の EDP に在籍中の先輩を通じ、新たな外国人高校生の進路形成に重要な影響を及ぼすことになる。次に日本人高校生に関しては、今まで以上に保護者（特に母親）を対象とした大学説明会に力を入れ、保護者が特に関心を寄せる大学入試の方法、大学の寮・大学周辺の住宅事情、大学独自の奨学金の有無や、大学卒業後の進路状況を含めた訴求力のある説明を行っていくことが、日本人高校生の進路形成にとり重要である。

注

- 1) 世界トップレベルの大学との交流・連携を実現、加速するための新たな取り組みや、人事・教務システムの改革、学生のグローバル対応力育成のための体制強化など、国際化を徹底して進める大学を重点支援する事業である。（<https://tgu.mext.go.jp/>）
- 2) 文部科学省「平成 31 年度の大学における教育内容等の改革状況について（概要）」に基づいている。（https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afieldfile/2019/05/28/1417336_001.pdf）（参照日：2020 年 8 月 1 日）
- 3) 38 大学 65 学部の EDP の内、小竹（2014）によると、29 大学 59 学部が「学部併設型」である。
- 4) 例えば広島大学の EDP の入試制度は、一般入試（20 名定員）、AO 入試（国内型選抜）（10 名定員）、AO 入試（国外型選抜）（10 名定員）となっている。このうち、一般入試、AO 入試（国内型選抜）で日本人学生が受験し、AO 入試（国外型選抜）で外国人高校生が受験するという特徴がある。
- 5) 例えばよく用いられることが多い QS World University Ranking では、その指標の一つとして外国人高校生の数が含まれている。（<https://www.topuniversities.com/>）（参照日：2020 年 8 月 1 日）
- 6) 本研究において高校生に調査協力をお願いするに当たり、広島大学の EDP の担当教員に許可をとったが、その際に出身階層などセンシティブな項目については倫理上、インタビューすることは望ましくないという指摘を受けた。このような倫理的制約上、本研究ではインタビューで尋ねることができなかったため、この点については今後の課題としたい。
- 7) 広島大学の EDP の模擬授業としては、Contemporary issues in tourism studies — from dark tourism to contents tourism（参加者：約 300 名）と、What you can do for

biodiversity — a small but important step for biodiversity protection（参加者：約 200 名）の二つが行われた。

- 8) 一部、日本語がわかる方については日本語で実施した。
- 9) 広島大学の EDP の国内選抜型入試で受験する日本人高校生は、TOEFL iBT42 以上、英検 2 級以上取得していることが、出願要件となる。また広島大学の EDP の国外選抜型入試を受験する外国人高校生に関しては、TOEFL iBT72 以上、英検準 1 級以上取得していることが必要となる。（<https://www.hiroshima-u.ac.jp/IGS/admissions-ao>）（参照日：2020 年 8 月 1 日）
- 10) 丸山文裕（2009）．『大学の財政と経営』東信堂参照。アメリカの大学の年間授業料は、州外民のものである。

参考文献

- Dearden, J. (2014). *English as a Medium of Instruction: A Growing Global Phenomenon*, British Council.
- 堀内喜代美（2015）．「募集要項から見る日本留学のアクセシビリティ—EDP 拡大と外国人高校生受け入れの関係性をめぐる考察」『外国人高校生教育』**20**, 75–82.
- 堀内喜代美（2018）．「英語プログラムと外国人高校生受け入れ姿勢の関係性—入試要項から見える傾向とアンビバレンス」『留学交流』**87**, 15–23.
- 片瀬一男（2009）．「教育アスピレーションと教育達成の変容—1975 年～2005 年の若年層男性」『東北学院大学教養学部論集』**153**, 47–66.
- 小竹雅子（2014）．「日本の大学における『英語による学位コース』の現状と課題」『文部科学省先導的・大学改革推進委託事業 大学教育改革の実態の把握及び分析に関する調査研究』, 205–220.
- 丸山文裕（2009）．『大学の財政と経営』東信堂.
- 三輪哲・苔米地なつ帆（2011）．「社会化と教育アスピレーション」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』**60** 巻 1 号, 1–13.
- 三好登・杉原敏彦・永田純一（2020）．「日本語学校外国人高校生の広島大学志望形成にかかわる研究」『大学入試研究ジャーナル』**30** 号, 146–153.
- 三好登（2019）．「中国人外国人高校生の日本の大学への進学行動」『大学入試研究ジャーナル』**29** 号, 269–276.
- 岡村季光・豊田弘司・多根井重晴（2017）「対人関係が『居場所』（安心できる人）に及ぼす影響」『次世代教員養成センター研究紀要』**3**, 83–87.
- 横田雅弘（2013）．「外国人高校生獲得のための入試広報戦略—オールジャパンと個々の大学の戦略」『留学交流』**33**, 1–10.